大阪民衆史研究会報

2026年5月号
第33巻第5号
（通巻366号）

発行　大阪民衆史研究会（代表 林　耕二）

E-mail: osaka.minshushi@gmail.com（オーサカ ドット ミンシューシ）

例会のお知らせ

◇5月例会

日時5月10日（日）午後1時半開場、2時開会　大阪府教育会館桃の間

報告者　川口真吾さん（東大阪市立孔舎衙小学校教諭）

「大阪陸軍刑務所と戦後の河内特別少年院」

大阪陸軍刑務所と、後継施設の大阪刑務所石切刑務支所、河内特別少年院をみていく。これまで陸軍刑務所の在監者の体験記はあるが、陸軍刑務所という施設に焦点を当てた研究はほとんどない。郷土史としても河内特別少年院について書かれた本も少ない。これらを研究することは戦中の行刑史としても、戦後の郷土史としても意義のあるものと考える。特に、在監者や収容少年の処遇が「力による制圧」から「地域への対外活動」「処遇の個別化」という変遷を概観することで、戦中戦後の行刑及び矯正教育における「人間観」をみていきたい。　参加費　会員400円、非会員500円

◇大阪民衆史研究会定期総会のご案内（6月例会は今回は休止）

日時　7月19日（日）午後1時半受付　会場　府教育会館3Fローズ

2時開会・記念講演～3時20分　3時半から総会～4時半終了予定

記念講演　広川禎秀さん（会員・大阪市立大学名誉教授）

「反ファシズムの闘いと大阪商大事件の真実（仮題）」

高市政権のもと、憲法9条改悪をはじめ、スパイ防止法など、「戦争国家づくり」をすすめるという点で、戦後かつてない危険な状況が生まれているなか、あらためて歴史に学ぶ必要があるのではないか。1943年、旧大阪商大（のちの大阪市立大学・現大阪公立大学）の名和統一教授とその門下生、日本貿易研究所所員の内田譲吉らの検挙で弾圧が始まった。その後、「ケルングループ」の商大生の検挙などが続き、教員の上林貞治郎など多くの教員や学生、卒業生などの検挙が1945年1月まで続いた。検挙された者50名、そのうち起訴された者が34名に上る。拘束されずに特高に取調を受けた学生が44名。その中で、獄死者が3名、精神に異常をきたした者が3名。釈放後、病死した人が何名もいた。記念講演は誰でも参加できます。